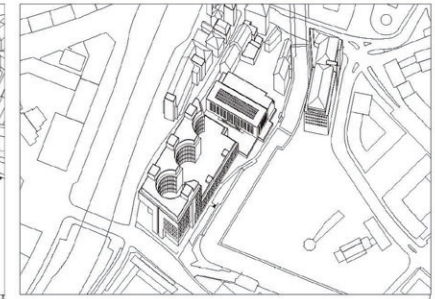
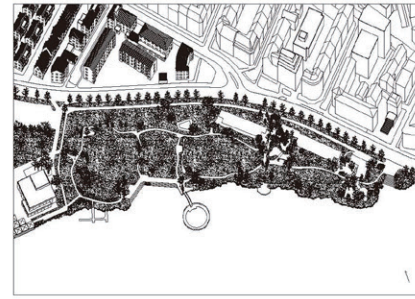
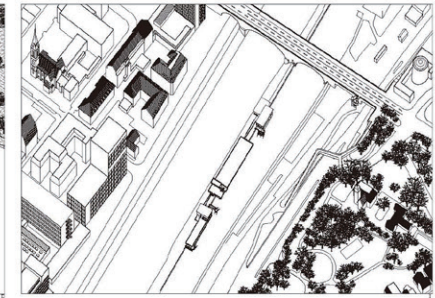
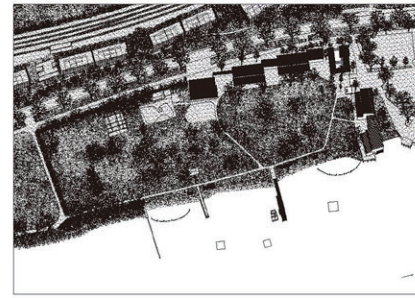
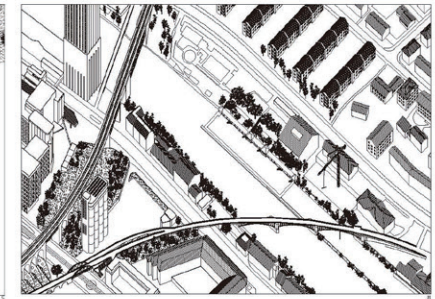
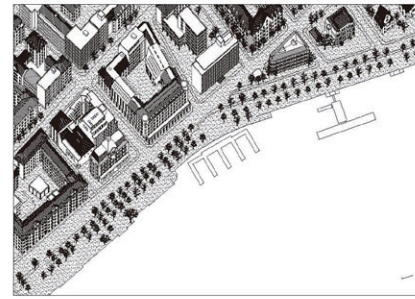
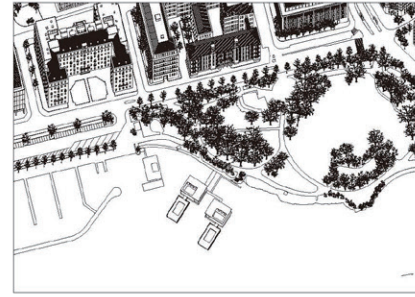
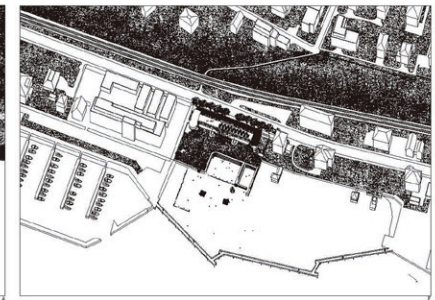
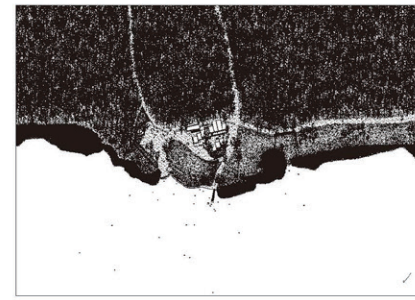
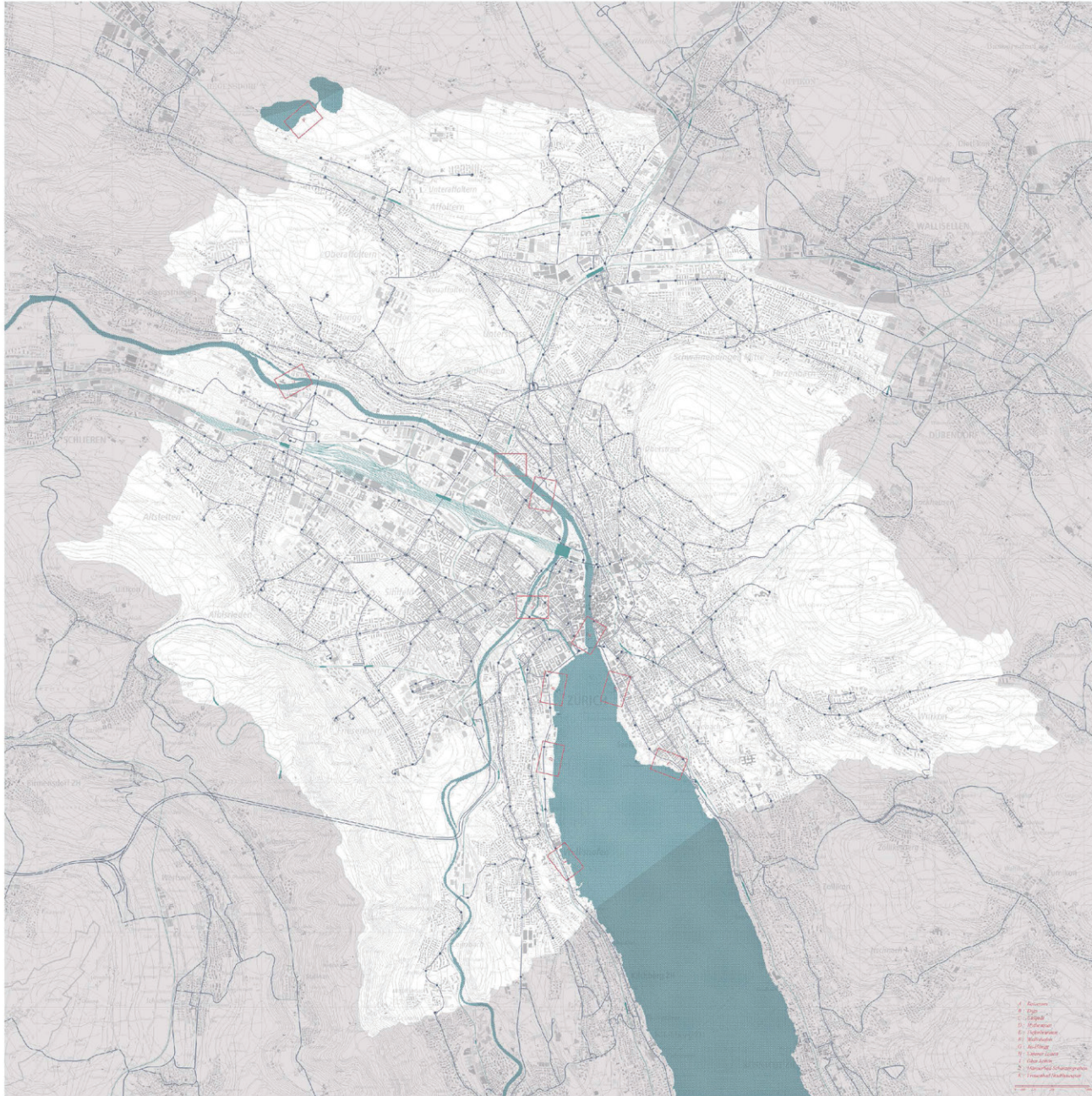
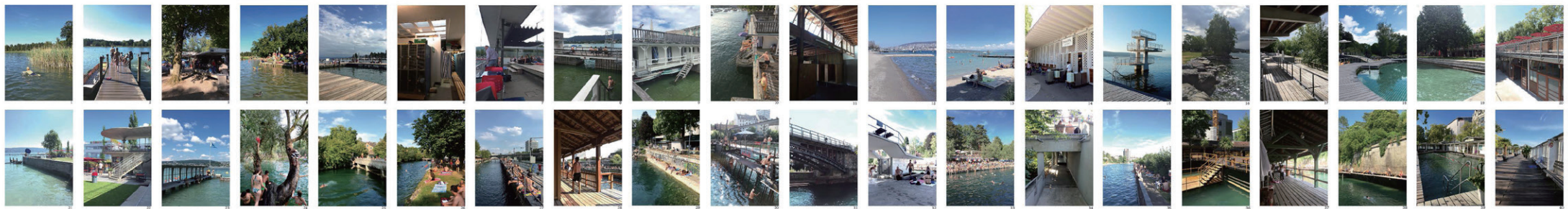
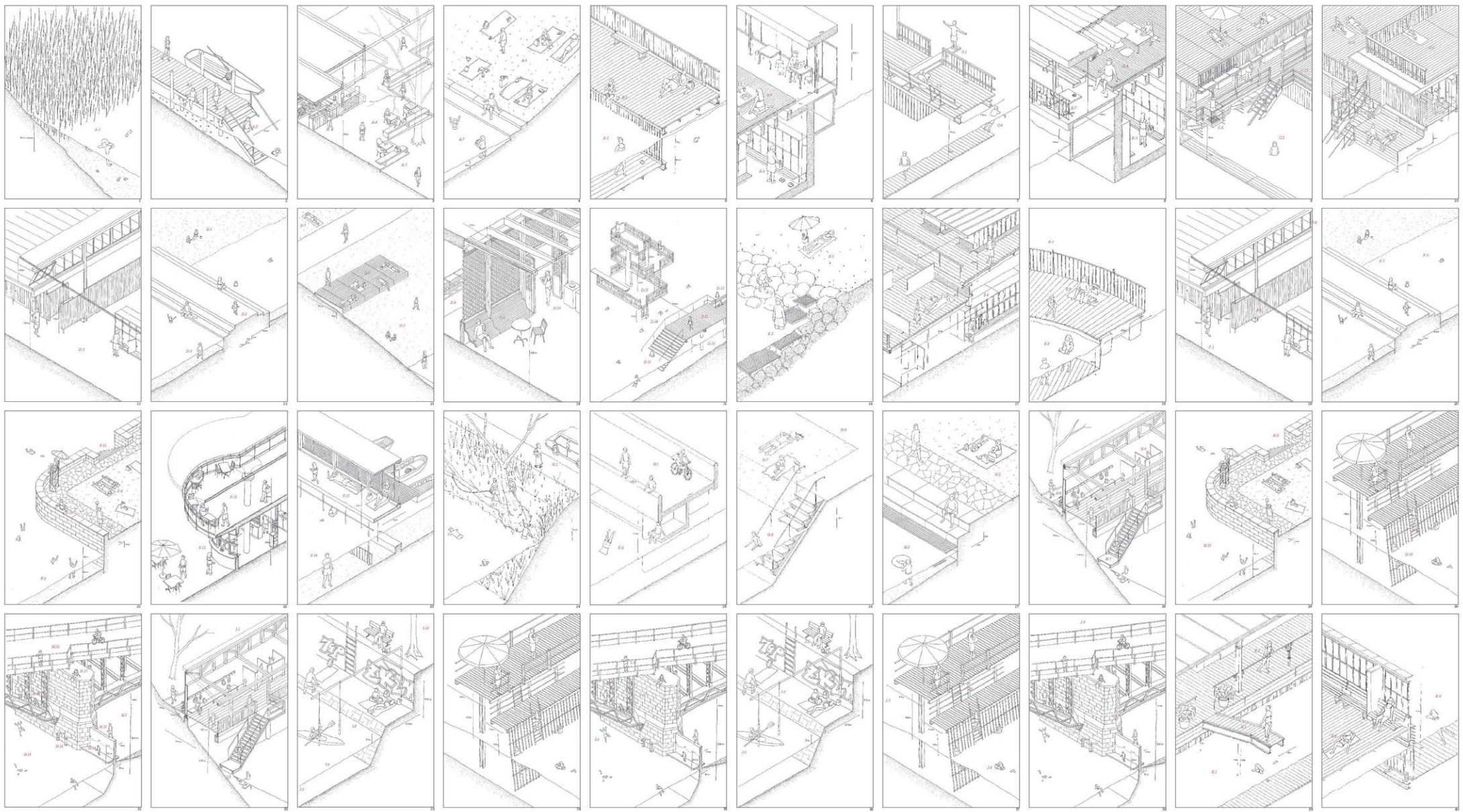


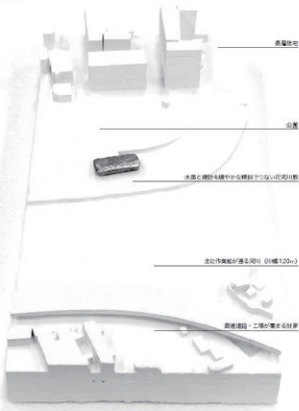
都市河川で泳ぐための場所を考えた。産業発展の弊害として失われた河川での豊かな遊べる質と良好な水質を、「遊ぶ」ことで取り戻すことができると考え、隅田川の3箇所を対象に設計を行った。スイスのチューリッヒ滞在中に、会社の昼休みに弁当を持って河川に泳ぎに来る人たちの姿に感銘を受け、そのような自然と都市と人の美しい関係を日本の都市河川でも見てみたいと思った。隅田川では80年前に水泳文化は絶えているため、設計の参考をチューリッヒの河川水泳場に求め、調査を行った。チューリッヒには湖と河川沿いに10箇所の施設があり、ほとんどが無料で利用できる。湖在中に発見した。注目すべき水と人と建築の関係をアクソメ図にて記録した。施設全体を捉えたもの《全体図》と部分的に注目したもの《詳細図》の2種類を制作し、計260個の《空間とみるまの特徴的な関係》を収集した。制作した資料を参考に、水辺の豊かな遊べる質を誘発する空間の構成・素材・手法を引用し隅田川での設計に反映させた。本来河川で遊ぶのに建築などいらないのだが、文化を再生し継ぐために場所を創り出す必要性を感じ、現代の人と都市と自然をつなぐ場所となることを目指した。



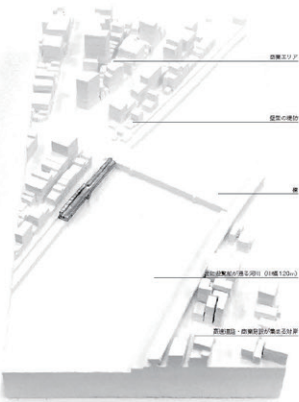




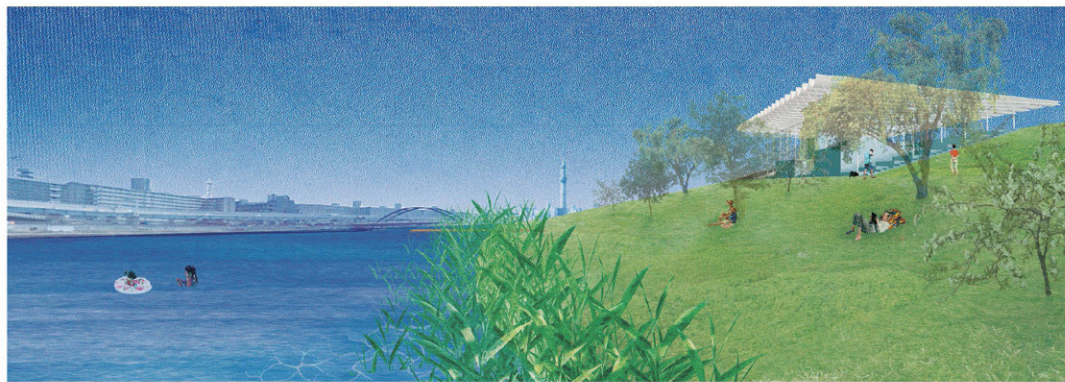
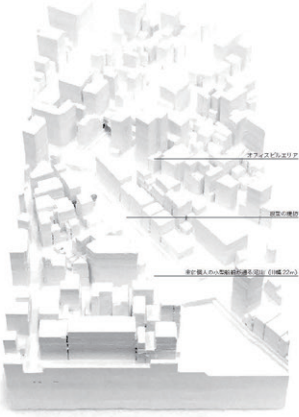
Site1 : 千住



Site2 : 両草



Site3 : 八丁堀



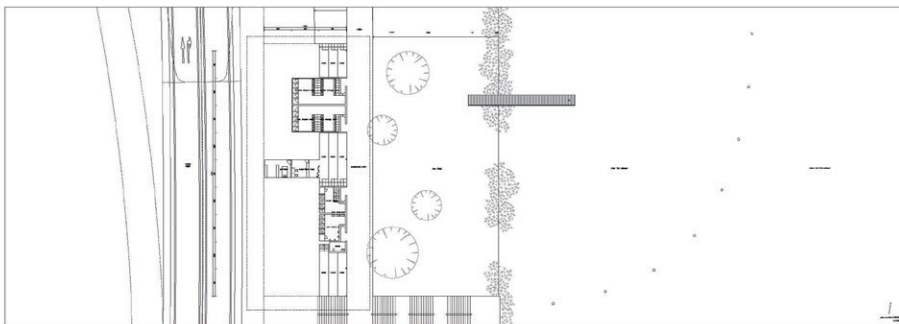
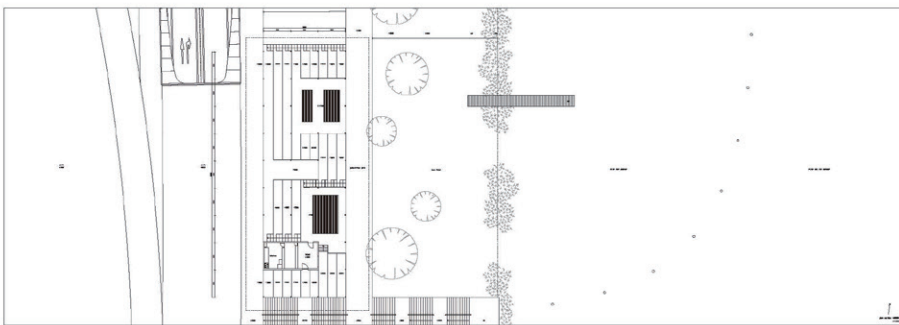
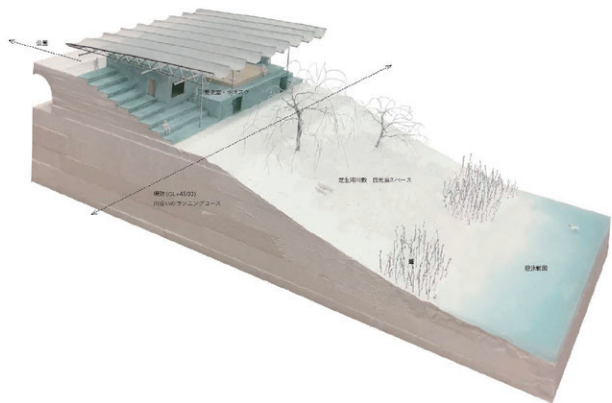
Site1 : 千住

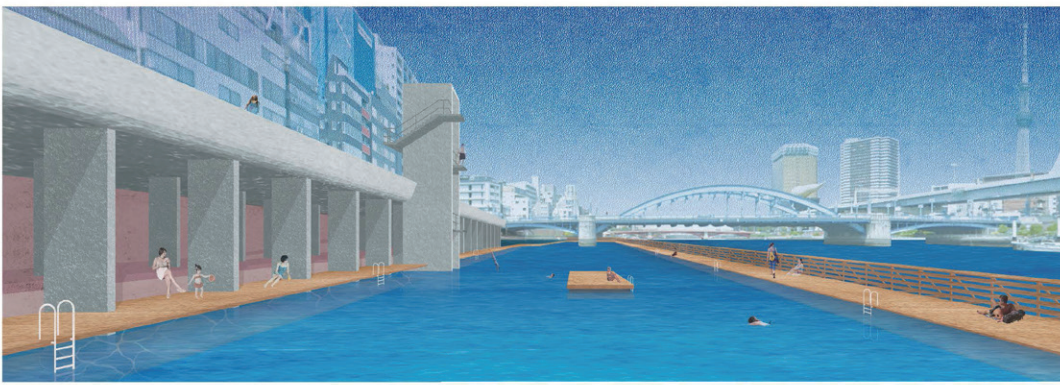
【敷地概要】

千住エリアはスーパー堤防と呼ばれる、堤防と岸がなだらかな植栽でつながる形状をしている。これは街と河川が堤防で分断されることを土木的に解決した手法で、1980年代のバブル期に多額の予算が投入され建設されたものである。堤防上は緑地公園になっており、公園周辺には小学校や高層マンションがある。放課後に公園で遊ぶ子供や、犬の散歩をする人、ジョギングをする人などが集まる生活色の強いエリアである。

【計画概要】

公園がGL+9000mm、歩行専用のターン数多い小道がGL+4500mmにあり、芝の植栽で繋がれている。一部は幅の広い階段になっており、河川を眺める人が階段に座るまゝが見られる。芝の植栽にはところどころ植栽があるが、人は立ち回らない。この魅力的とはいえない人工的な緑地空間を否定せずに活用し、都市の中のランドスケープの魅力を感じられる場所となることを目指した。
 GL+9000mmからGL+4500mmをつなぐ植栽に、高さ500mmの段差でコンクリートの階段をつくり、段差の一部を張り出させ各プログラムを配置するように配する。各プログラムが入ったコンクリートの畳の上は休憩や日光浴のテラスとする。
 上部には鉄骨の架構に半透明のシート屋根を掛け、自然光を多く取り込む。屋根はGL+9000mm地点ではCH+2200mm、GL+4500mm地点ではCH+6700mmとして低を深く張り出させ、公園から河川への視界を阻害しないものとする。
 GL+4500mmから水域までの植栽は広大な芝生の日光浴スペースとし、日陰用の植栽を行う。水域へなだらかなつながるように植栽に造成し、遊泳可能範囲はバイで仕切る。水源には草が生い茂る。

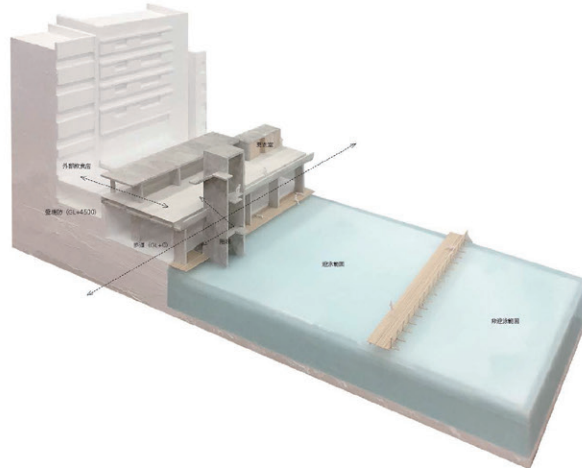




Site2 : 浅草

【敷地概要】
浅草エリアはカミソリ通りと呼ばれる、厚さ 500mm ほどのコンクリートの堤防が街と河川を隔ている。堤防を乗り越える階段とスロープが点在しており、そこから川沿いの歩行者用の小道へアクセスする。川沿いの小道は散歩やジョギングコースとして利用されている。また川沿いの商業施設から、堤防端にデッキを張り出させ河川の風景を眺む「かわまちテラス」が豊田区から整備されているが、現状では3件のみ導入されている程度である。近くには浅草最大の船形船やフェリー乗り場があり、観光・商業色の強いエリアである。

【計画概要】
堤防や橋などの土木的な構造物が多く、それらを延長させたような施設とすることで、周辺のふるまいの平面的・立体的な平仄を解消する施設とし、都市の中の大きなブレイクを身体で感じられる場所となることを目指した。堤防と一体化したコンクリートのスラブと柱で堤防の高さ GL+4500mm を延長させ、その上に各プログラムと日光浴スペースを配置する。直線 100m に渡りスラブを設けることで、隣接する商業施設の「かわまちテラス」と直線的につながり、飲食などを商業施設で行えるなど、ふるまいが水泳場内で完結しない状態を回っている。
GL±0 の歩行者用の小道を踏すように上部スラブを支える柱を配置し、張り出したウッドデッキから河川へアプローチする。上下階をつなぐ動線のうち 1 箇所は飛び込み用の機能を併せ持たせ、また既存のスロープをそのまま施設の動線としても利用する。船交通の多いエリアのため、遊泳可能範囲はウッドデッキで明確に区切る。既存の橋（船形橋）から飛び込むふるまいが発生することを予測し、橋下も遊泳スペースとなるようウッドデッキで橋脚を大きく囲んでいる。



Site3 : 八丁堀

【敷地概要】
八丁堀エリアは隅田川から取水した塩の採り水溜りであり、河川の両端に水門が設けられ水溜りの流れが少ないため、堤防の高さは GL+3000 と低く、建物も川沿いに隣接している（特約のため図 3.2.1 には記載なし）。そのため他のエリアよりも河川を身近に感じることができ、現状では個人の小型船舶が停泊しているだけで、他の活用は見られない。周辺は小型木造の建物が点在するなか、近年は大型のオフィスビルが増加している特徴的な強いエリアである。居住みにお弁当を川沿いで食べる人の姿などが見られる。

【計画概要】
身体的なスケールの川辺空間を活かし、小さくも都市を感じられる場所となることを目指した。川沿いは現状一部のみ立ち入れる状態であるが全面的に解放させ、橋や遊歩道から河川へアプローチする動線を設ける。周辺に点在する小規模木造建築からの参照、また身体的なスケールを維持するため、各プログラムが入った建物は従来の木造平屋とし GL+3000 から河川上に戻り出させる。建物を支えるための河川上にある構造は、遊泳を阻害しないように配置する。小型船舶の遊る動線と遊泳可能範囲をデッキで明確に分け、川幅が狭くなるぶん長さ 170m に渡って遊泳可能範囲を設けている。両端に建物を設けどちからからのアクセスでも利用できるようにする。日光浴のスペースを河川上のデッキの他に、堤防沿いに足を横たえることで設える。橋上から飛び込むふるまいを予測し、水上のデッキは橋下も通す。

